

長崎純心聖母会・純心女学院創立者

日本人最初の司教 はや さか きゅう の すけ 早坂久之助司教 1883(明治16)年～1959(昭和34)年

①ピオ11世教皇が早坂司教に与えた祝辞

「…実に愛すべき兄弟よ、卿に委託される任務、卿に授けられる使命は、貴国民の間にキリストの御国を拡張すべく力の限り務めるにあるのです。」

(早坂司教の司教叙階式:教皇ピオ11世司式
パチカン聖ペトロ大聖堂 1927年10月30日
出典:「カトリック教報」第1号、昭和3年11月発行)



ピオ11世

②ローマ教皇庁ファン・ロッセム布教聖省長官が早坂司教に与えた勧め

「私(早坂)が未だローマに滞在(司教叙階後)していた時、私達の長上であるファン・ロッセム枢機卿が私にお勧めになっておられたことがあります。それは信者・未信者の女子のためのカトリック教育とその他の社会事業のために、その土地(日本)の女子修道会を創立することでした。」

(早坂司教がリジューのカルメル会へ送った書簡1929年2月5日付
出典:『創立者ヤスワリオ早坂久之助司教の「使命」と長崎純心聖母会の「創立のカルスマ」』長崎純心聖母会、2009年)



ロッセム枢機卿

③ファン・ロッセム枢機卿が早坂司教に与えた勧め

「私たちの仕事は、人間を人間として完成させることにある。人間として完成させることは、すべての人間を永遠の幸福に導かなくてはならないことだ。そのためには教育がある。だから学校をたてなさい。しかし、人間は精神と肉体からなっている。学校で精神を高めていくことは非常に必要だけれども、肉体的に苦しんでいる人を助けてあげなければならない。だから、学校を建て、社会福祉も合わせておこないなさい。これが日本における仕事ではないでしょうか。」

(出典:片岡弥吉学園創立者 故早坂久之助司教を偲んで
『会報』第8号、長崎純心聖母会、1977年)

④最初の日本人司教祝聖の記念にローマで鑄造されたメダル その金製メダルは教皇から天皇陛下に贈呈された



⑤長崎純心聖母会の創立のカルスマ (創立者早坂司教のオリジナルカルスマ)

「与え尽くす十字架上のキリスト」



聖ペトロ大聖堂(外観)



聖ペトロ大聖堂(内部)

早坂久之助司教の略歴

1883(明治16)年 宮城県仙台市に生まれる
1898(明治31)年 東京・文海尋常高等小学校卒業
1902(明治35)年 東京・日本中学校卒業
1905(明治38)年 仙台・第二高等学校卒業
1905(明治38)年 イタリア・ローマのウルバノ大学(現:ウルバニアナ大学)留学
1911(明治44)年 ローマにてカトリック司祭に叙階



仙台元寺教会主任司祭時代

1911(明治44)年～1927(昭和2)年 帰国 カトリック司祭として宮城県、青森県、北海道、福島県にて宣教・司牧活動に従事
1921(大正10)年～1925(大正14)年 駐日教皇庁使節マリオ・ジャルディーニの秘書を務める
1926(大正15)年 文部省の宗教制度調査会委員に任命される
1927(昭和2)年 長崎教区の司教に選任される(日本人最初のカトリック司教)
パチカンの聖ペトロ大聖堂にてピオ11世教皇より司教に叙階される



中央が早坂司教
向かって左側奥が教皇ピオ11世



司教叙階後ローマにて撮影

1928(昭和3)年～1937(昭和12)年 欧米諸国の教会・教育施設・福祉施設等を視察した後帰国
長崎の大浦天主堂に着座
この後、長崎教区長として司教養成・長崎純心聖母会創立・「カトリック教報」創刊・カトリックアクションの活性化・教会建築等に尽力する

1933(昭和8)年 脳溢血で倒れる
1934(昭和9)年 大浦天主堂の「サンタ・マリアの祭壇」前にてカトリック女子修道会「長崎純心聖母会」を創立
初代会長にシスター江角ヤスを任命する
1935(昭和10)年 純心女学院を創設
1937(昭和12)年 脳溢血後の快復ならず長崎教区長を辞任
仙台にて療養する
1948(昭和23)年 原爆に被災し大村に移転していた長崎純心聖母会に帰り、その歩みを見守る
1959(昭和34)年 仙台のスベルマン病院にて帰天
長崎教区葬にて長崎の聖職者墓地に埋葬される